

[卒業論文]

卒論題目のサンプル

(指導教員) 指導教員 教授

コンピュータサイエンス学部人工知能専攻

研究室名研究室

学籍番号 C0B22888

工科 太郎

[2025 年度]

東京工科大学

卒業論文

論文題目

卒論題目のサンプル

指導教員

指導教員 教授

提出日

2025年2月XX日

提出者

学部	コンピュータサイエンス学部
専攻	人工知能専攻
学籍番号	C0B22888
氏名	工科 太郎

2025年度 卒業論文概要

論文題目

卒論題目のサンプル

コンピュータサイエンス学部 人工知能専攻	氏名	工科 太郎	指導教員	指導教員 教授
学籍番号 C0B22888				

本テンプレートは LuaLaTeX 用に調整した東京工科大学コンピュータサイエンス学部の卒業論文フォーマットです。研究の背景、解決したい課題、採用した手法、得られた成果を簡潔に記述してください。必要に応じてキーワードを末尾に列挙します。

目 次

1	序論	1
1.1	背景	1
1.2	目的	1
1.3	論文構成	1
2	関連研究	2
2.1	先行研究の分類	2
2.2	本研究の差別化	2
3	提案手法	3
3.1	課題の定式化	3
3.2	手法の概要	3
3.3	詳細設計	3
4	実装	4
4.1	システム構成	4
4.2	主要モジュール	4
4.3	開発上の工夫	4
5	評価	5
5.1	実験設定	5
5.2	評価指標	5
5.3	結果	5
5.4	考察	5
6	結論	6
6.1	まとめ	6
6.2	今後の課題	6
	謝辞	7

図 目 次

4.1 システム構成の例	4
------------------------	---

表 目 次

5.1 結果の例	5
--------------------	---

第 1 章

序論

本章では研究の背景、課題設定、論文全体の構成を示します。例として、オンラインコミュニケーションにおける体験向上を目標とするケースを想定し、課題の重要性と解決する意義を述べてください。

1.1 背景

対象ドメインの現状や社会的な文脈、既存手法の限界などを整理します。

1.2 目的

本研究が解決する具体的な問題と達成指標を明確に記述します。

1.3 論文構成

各章の役割を簡潔に説明し、読者にロードマップを示します。

第 2 章

関連研究

本章では関連研究・関連技術を整理し、本研究の位置づけを明確にします。

2.1 先行研究の分類

テーマごと、手法ごとなど適切な軸で分類し、それぞれの特徴と限界をまとめます。図表やまとめ表を用いて差分を示すと読みやすくなります。

2.2 本研究の差別化

既存手法に対してどのような新規性・有用性を持つのかを明確に述べます。

第 3 章

提案手法

本章では研究で提案する方法を詳細に記述します。

3.1 課題の定式化

解決したい問題を数式や手順で定義し、入力・出力・評価指標を明示します。

3.2 手法の概要

提案手法の全体像を図やフローチャートで示し、各コンポーネントの役割を説明します。

3.3 詳細設計

アルゴリズム、アーキテクチャ、データ処理フローなどを必要に応じて節分けし記述します。パラメータや実装上の工夫があれば表にまとめてください。

第 4 章

実装

本章ではシステム構成と実装の詳細を記述します。

4.1 システム構成

利用したハードウェア・ソフトウェア、ライブラリのバージョン、依存関係を整理します。図 4.1 のように構成図を置く場合は、画像を `fig/` 配下へ保存してください。

図 4.1: システム構成の例

4.2 主要モジュール

提案手法の要となるモジュールや関数の振る舞いを説明します。

4.3 開発上の工夫

パフォーマンス最適化、エラー処理、再現性を高める設定などをまとめます。

第 5 章

評価

本章では実験方法、データセット、評価指標、結果、考察を記述します。

5.1 実験設定

比較手法、データ分割、実験環境（CPU/GPU、OS、フレームワークのバージョン）を明記します。

5.2 評価指標

定量評価に用いる指標を定義し、算出式や根拠を示します。定性的評価がある場合は手順を説明してください。

5.3 結果

表 5.1 や図を用いて結果を整理します。

表 5.1: 結果の例

手法	指標 A	指標 B
Proposed	0.90	0.85
Baseline	0.80	0.78

5.4 考察

結果の解釈、失敗したケース、今後改善できる点をまとめます。

第 6 章

結論

本章では研究のまとめと今後の展望を述べます。

6.1 まとめ

本研究で達成したことを簡潔に整理します。目的への達成度を定量的に示すと明確になります。

6.2 今後の課題

未解決の課題、適用範囲の拡大、追加実験の計画など、次のステップを記述してください。

謝辞

本研究を進めるにあたりご指導を賜った指導教員、議論に協力いただいた研究室メンバー、評価実験に参加いただいた皆様に感謝いたします。

参考文献

- [1] 猫山ねこ. リモートビデオ通話を用いた室内飼育猫のストレス低減効果. 猫学会論文誌, 2(2):2–22, 2022.
- [2] Hayato Kajiyama, Akifumi Inoue, and Tohru Hoshi. SHAPIO: Shape I/O Controller for Video Games. In *Proceedings of the 2015 Annual Symposium on Computer-Human Interaction in Play*, pages 565–570, 2015.
- [3] 木下是雄. 理科系の作文技術. 中央公論社, 1981.